TRICK STAR

JP 250
Presented by DUNLOP

2016全日本ロードレース選手権第1戦 筑波
MFJ-CUP　JP250クラス
参戦報告書

■エントリー名：**TRICK STAR Racing**
■監督：鶴田竜二
■ライダー/ゼッケン：山本剛大　（＃21）
兵藤龍之介（＃11）
藤村太磯　（＃13）
■開催日/サーキット：２０１６年４月７日（木）～４月９日（土）
：茨城県　筑波サーキット
■マシン：カワサキ**Ninja250**
■結果：山本剛大　予選　１位　レース　優勝
：兵藤龍之介 予選　１６位　レース　１２位
：藤村太磯　予選　１２位　レース　５位

TRICK STAR Racing、今年度より全日本ロードレース選手権に併催開催されるMFJ-CUP　JP250クラスに参戦する。昨年度より参戦しチャンピオン獲得したARRC　AP250クラスと比べるとマシン改造範囲が狭く、混戦が予想される。そして注目度を示すように今大会には56台ものエントリーが集まった。
山本剛大は筑波サーキットでのレース経験は豊富だが、兵藤龍之介と藤村太磯は1度（2日間）の練習のみでレースウィークを迎える。

【４月９日（土） 公式予選 】
Qualify ８:０５～８:２０ JP250 １組
８:３０～８:４５ JP250 ２組
天候:晴れ コース:ドライ

前日に開催された特別スポーツ走行から山本剛大選手はトップタイムを記録していて、１５分間の短い公式予選中も焦らずに確実に前を走行しているライダーを抜きながらタイムアップし、公式予選でもトップタイムを記録しポールポジションを獲得。
一方、兵藤龍之介選手と藤村太磯選手は、クリアラップでタイムアタックが出来ずにベストタイムを更新出来ずに予選時間終了間際になってしまう。しかし二人とも予選計測最終ラップには自己ベストタイムを記録し、兵藤龍之介選手は１６位 藤村太磯選手は１２位で決勝グリッドに着く。
ポールポジション獲得の山本剛大選手は勿論の事、兵藤龍之介選手・藤村太磯選手とも走る度にタイムアップしていて、決勝レースに期待する。

【４月９日（土） 決勝レース １２ラップ 】
Final １３:２０～ １２ラップ
天候:晴れ コース:ドライ

山本剛大選手、スタート良く飛び出し1コーナーをホールショット。
兵藤龍之介選手はスタートに失敗し中盤に埋もれてしまう。
藤村太磯選手はまずまずのスタートで1コーナーを１０番手辺りで通過。
１周目裏ストレートで早くもトップから4位までが後続を引き離しグループを形成していく。
４周目ASIAコーナー立ち上がりでトップ山本剛大の後方2番手に着けていた青木選手がハイサイドで転倒してしまう。その頃藤村太磯選手は１０番手・兵藤龍之介選手は１９番手を走行。次周1コーナーまでに藤村選手が8番手に上がるが、7番手との距離が少しずつ離れてしまう。6周目辺りからトップグループは7台になり、約2秒後方に第2グループが追走する。その第2グループの先頭に藤村選手が着けている。
何度か2番手の選手がトップを走行する山本選手のインに飛び込んで来るが、確実に次の仕掛けどころのコーナーではトップを奪い返す。最終ラップの最終コーナー手前裏ストレートでスリップストリームに入り山本選手のインに入ろうとしてくるが、確実に最終コーナーに進入しトップでチェッカーフラッグを受け優勝する。最終コーナーで2番手と3番手を走行していた選手が転倒し、藤村選手は後続のプレッシャーを抑えきり6位でゴール。兵藤選手はスタートの失敗が悔やまれ１２位でゴールする。
レース後の再車検で違反していた車両が失格となり、藤村選手が総合５位、NATクラスでは3位に繰り上がる。

TRICK STAR

【ライダー　山本剛大選手　コメント】

予選は特にスリップストリームを意識せず決勝を見越して12LAP以上の連続周回をしました。単独でのタイムアタックとなったのですが、レースウィーク初日からのセッティングの流れも良く、1分6秒1を記録してポールポジションを獲得しました。

決勝、予選タイムがかなり僅差だったので、5台くらいの集団になることは予想されていました。腕を磨くためにあえてかなりの距離を走行していた馬力の無いエンジンで参戦していたため、ストレートで抜かれてはコーナーで抜き返すというレース展開になりました。3周目あたりでは、周りと比較して自分の強さが強いと確信したので優勝できると思いました。
最終ラップ、逃げ切るためにスパートをして後続を引き離しかけましたが、CXコーナーでハイサイドしかけてしまい失速して抜かれてしまいましたが、そのまま冷静にスリップストリームを使い最終コーナー進入でアウトから抜き返し、そのままゴールし優勝できました。

苦手な筑波サーキットでのレースでしたが強さを見せて勝てる事ができました。
次回はアジアロードレース選手権のタイラウンドです。
今回のように強くレースをして優勝できるように頑張ります。
応援、有難うございました。

【ライダー　兵藤龍之介選手　コメント】

予選は後ろの方からスタートしたのですが、集団の中での走行になり、あまりタイムが伸びず、1度ピットインして少し違和感があったフロントサスペンションのイニシャルを1ミリ抜いて再スタートしました。再スタート後、単独走行で1周目から自己ベストタイムで走ることが出来たのですが、周りのライバルたちもタイムアップしていて、結果16番手になってしまいました。

決勝はスタートで出遅れ4台ほどに抜かれてしまいました。アジアコーナーでフロントが跳ねて第2ヘアピンコーナーで前のライダーに追いつけず、抜くポイントが1コーナーと最終コーナーしか無くなり、抜くのに時間が掛かってしまいました。
ラスト2周ぐらいで第2グループに追いついたのですが、抜いたり抜かれたりで順位が上がらず最終ラップで何とか1台を抜き、コーナー立ち上がりでもう1台と並んだのですが抜ききれずにゴールして12位でした。

次のレースの時は、スタートをしっかりと成功させセッティングをしっかり決め予選順位を良くしトップグループに離されないようにします。

最後に応援して下さったファンの方、チームの方、スポンサー様、本当にありがとうございました。

【ライダー　藤村太磯選手　コメント】

予選は走り込んで学んだ事の集大成を出す気持ちで臨みました。
前日までに出したタイムのままでは順位的に厳しくなると予想していたので、積極的にスリップストリームを利用しようとしましたが、位置取りが悪く上手くタイムアップさせられませんでした。もどかしい気持ちで操作もキレ良く行えませんでしたが、最終ラップに自己ベストを更新して1分7秒0を出し、12番グリッドとなりました。

決勝は良くも悪くも他車と同じ位のタイミングでスタートしました。
レース前半は、前日までとマシンのフィーリングが変わっている事に惑わされ焦りが出てしまいました。
何度かミスしてしまった事で2･3台程のペースの良くない車両とバトルする事になってしまい、徐々にトップグループから離されてしまいました。
残り6周を迎えた辺りで完全に第1集団と第2集団に分かれてしまい、少しでも第1集団に追いつくためにプッシュしましたが無駄にリヤタイヤを滑らせてしまいペースを上げられませんでした。
この時に意識して後ろを振り向かなかったので、後続がどれ位いるのか確認できませんでしたが間違いなくかなりの台数がいると思っていたので集団に呑まれないために集中して乗ろうと努めました。
結果的に最終ラップまで流れを変える事が出来ず、第2集団トップの総合6位でチェッカーを受けました。
レース後の車検で総合5位の選手が失格となったため総合5位（国内ライセンス3位）が正式結果となりました。

今回のレースは3月30日に初めて筑波を走り、走行毎にセッティングの方向性も固まっていき、タイムも着実に上がっており、予選でも自己ベストを出し、良い流れの中で決勝を迎えていただけにトップグループに離されてしまった事が一番の反省点です。
 次回の第2戦オートポリスでは初走行から決勝まで良い流れを作り、レース中も強い走りが出来るようにトレーニングを積み重ねます。

日頃から沢山の方にアドバイス、サポート、応援を頂き、良い環境で走らせて頂いたおかげでレースを迎える事が出来ました。ありがとうございました。
目標であるチャンピオン獲得のために更に頑張りますので、引き続き応援よろしくお願いします。

【監督　鶴田　竜二　コメント】

今回のMFJ-CUP　JP250クラスは、昨年度からチームとしてアジアロードレース選手権と同様、エントラント側の立場からロードレースの底上げに根差した活動であり、若手育成というテーマに基づき参戦する事を決めました。

大会を盛り上げる為にも昨年アジアロードAP250クラスチャンピオンの山本剛大選手を参戦させ、他若手の藤村太磯選手と兵藤龍之介選手の３名でエントリーし、レースの結果は山本剛大が見事に盛り上げながら優勝を果たし、若手２人は初筑波サーキットでしたが、藤村太磯はクラス３位、兵藤龍之介はクラス４位と、まずまず良い成績を残してくれました。

山本は自身のレースだけではなく、経験の少ない若い選手に自分の培ってきたノウハウを伝えチームに大きく貢献してくれました。

またライダーだけではなく、メカニックも若い人材を起用しチームとして、まさに次世代に繋げる活動のスタートが出来ました。

次戦からも引き続き、若い選手やメカニックに夢を与えれる活動に微力ながら貢献していければと思っております。

最後になりましたが、トリックスターレーシングを支えて頂いておりますスポンサー様、いつも熱い応援を頂いておりますファンの皆様、関係各者様に感謝しております。

チーム代表

鶴田竜二